



大学医療センター 看護学校 浜田附属

小・中・高校生から専門学校、短大、大学の学生まで、若い人たちの意見を特集する「ヤングこだま」です。今度も浜田医療センター附属看護学校2年生の皆さんです。学校、学級単位での投稿を募集しています。投稿希望の学校は「ヤングこだま」係・電話0852(32)3305までご連絡ください。

### 練習重ね知識や技術を習得

2年 漆迫 優花  
私が看護師を目指したきっかけは祖父の存在でした。私は幼い頃、共働きの両親の代わりに、祖父と多くの時間を過ごしました。両親に代わって私を楽しませようと、いつも遊んでくれた祖父が私は大好きでした。

その祖父が入学1カ月前に亡くなり、これからはどう頑張っていくかという不安な気持ちのまま入学しました。入学してから勉強に身が入らず、練習してもなかなかうまくいきませんでした。気持ちも落ち着かないまま、ほとんど時間が過ぎていき、テストも増え、気持ちはいっぱいいっぱいでした。

### 日々学びの中に新たな成長

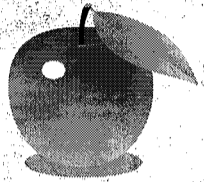
2年 徳永 悠  
私にとってこの1年は私にとっても速く感じられた。なぜなら、ただ忙しいというだけでなく、日々の経過とともに多くのことを学んでいき、自分の中で新たな成長が見られるようになった。

母親の愛情のこもった夕食だった。そして、家族は私の中でも大きな存在であり、心の支えになっていたことに気付いた。

張れる」と言われたことはずつと覚えていた。今は自分の心の支えになっていきます。看護師になったら、小児から老年までさまざまな患者さんがいると思うけれど、それぞれに応じた看護が自信を持ってでき、実習で出会った患者さんに褒めていただけたいです。笑顔で寄り添い、患者さんの不安な気持ちを傾聴し、軽減することができるようになりたいです。でも、技術や笑顔で寄り添うだけでは患者さんの不安を軽減できないと思います。さまざまな場面での自信を持って援助が行えるよう、練習を重ねて知識や技術を習得したいと思っています。

### 改めて食生活の大切さ認識

2年 石橋 亜依  
私は小児保健の授業を通して、改めて食事の大切さについて考えるようになりまし。食事の中でも甘い飲食物や炭酸飲料などを過度に摂取してしまうと、アルツハイマー病を発症するリスクが高まるということです。



甘いものをよく食べており、食事にあまり気を付けていなかったため、アルツハイマー病になったのかもかもしれません。アルツハイマー病と聞くと、防ぎようのない病

食生活とは言えませんが、それは、若いからどんな食生活しても大丈夫、などという無意味な根拠を心のどこかに持っているからだと思います。

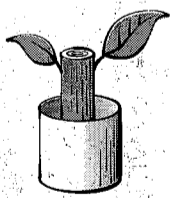
だと考えている人が多いと思いますが、それは違います。生活習慣がこの病気を生んだのだと思います。今の私自身も正しい

### 学校生活1年を終えて

そして、今回の授業で学んだ知識を無駄にしないように、決して自分たちだけで終わらせず、多くの人に伝えることが今の私にできることだと思えました。これからも自分なりに考え続け、次につなげていけたらいいなと思えました。

### 人との接し方の大切さ学ぶ

2年 河内 彩恵  
この1年間を振り返って、私が学んだのは人との接し方の大切さです。私は入学した当初、知り合いが少ない中で初めてのこのことを習うというの



シヨンを取ることや、実際に患者さんに行った援助を指導者の看護師の方に報告することも初めて体験しました。

患者さんは一人一人考え方も気持ちも全く違います。積極的に会話してくれる方もいれば、あまり話されない方もいます。私が実習で受け持った患者さんは「痛い」「つらい」などの思いをよく言われる方でした。患者さんが「痛い」と言われ

う。それは、入院中は家族や友人に毎日会うことができず、孤独や不安を感じている患者の心の支えとなることである。それが今自分が目指している看護師の役割の一つだと思つからである。

合つて乗り越えられたらいいと思う。仲間と協力し合つて解決していくことは、患者、家族を含めたチーム医療を実践することに生かせると思う。1年間を終えて、新しい生活や学習環境、時には苦悩を経験し、自立して大人になること、仲間との協調性の大切さを学んだ。これからの学習生活に生かしていきたい。